

汚水処理の普及を進めるために

汚水処理連携セミナーを開催

下水環境課

TEL019-629-5896

○日時：平成 18 年 11 月 1 日（水）13：00～17：00

○会場：エスポワールいわて（盛岡市）

下水道、集落排水施設、浄化槽など、汚水処理の方法には様々あり、地域の実情に合わせて普及を進めています。平成 17 年度のデータによると、本県汚水処理人口の割合（汚水処理人口普及率）は、64.8%となっており、全国で 36 位、東北では 5 位と依然として立ち遅れている状況です。県では、平成 22 年度の汚水処理人口普及率 80%を目標に掲げ、快適な生活環境の整備に努めています。

整備を進めるには、行政、関係機関相互の連携が不可欠。そこで、より経済的・効率的な整備促進と維持管理に関する情報を共有する目的で、標記セミナーを開催しました。

開催にあたっては、各種汚水処理施策の連携を強化するため、（財）岩手県下水道公社、岩手県土地改良事業団体連合会、（社）岩手県浄化槽協会の協賛をいただきました。

当日は、県内市町村の汚水処理行政担当者や振興局の汚水処理担当者等約 90 人が参集し、熱心に講演を聴講するとともに、活発な意見交換等が行われました。

◆ 講演 1 「下水道事業における経営健全化に向けて」公認会計士 ^{みやた} ^{かなめ} 宮田 要 氏



大阪市で公営企業（水道）に携わった経験等を踏まえ、下水道事業における経営健全化に向けて、中期経営計画を策定した上で、適正な料金設定や企業会計方式の導入、包括的民間委託の実施等コスト削減の取組みが必要であること等が紹介されました。

◆ 講演 2 「新潟県中越大地震からの下水道復旧」新潟県土木部都市局下水道課主任 ^{まえだ} ^{のぶゆき} 前田 信之 氏

2 年前の新潟県中越大地震において、下水道処理施設に大規模な被害が生じ、その復旧に携わった経験を踏まえ、身近なライフラインである下水道が被災した際の対応のポイントや日頃の危機管理のあり方などについて、現場写真や実際の体験談等を交え、貴重な話題が紹介されました。



【講演 2 で紹介された大震災の教訓】

-
- ① 迅速な初動体制の立上げ
- ② 被害情報は、取りに行け！
- ③ 水道復旧の前に、下水道を回復せよ！
- ④ 生汚水は、絶対に出さない！
- ⑤ 災害支援のルール化
- ⑥ 下水道台帳は必需品
-

◆ 意見交換会

【テーマ 1】下水道事業における経営健全化に向けて（アドバイザー：宮田 要 氏）

水洗化の向上策や適正な料金設定とはどうあるべきかなどについて活発な議論が交わされました。

【テーマ 2】下水道施設の地震災害対応について（アドバイザー：前田 信之 氏）

災害査定に向けた迅速な被災規模の把握などについて意見交換され、今後の取組みの参考となる貴重な意見が数多く出されました。